

令和 4 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和5年3月27日

法人名

園名

和順会

むさしこども園

まとめ

全体平均

3.73

第2章第2節 乳児期の園児の保育	(0歳児)子ども一人一人との信頼関係を大切にしたい。落ち着いて過ごせる環境作りにも心がけた。家庭での生活リズムをベースにして少しずつ園の生活に慣れていけるようにした。子どもたちには優しい雰囲気や言葉がけを心掛けて、自分を出せるように心掛けた。「身近なものとの関わり感性が育つ」部分が課題で、まず子どもの興味・関心を知る、個人の特徴や発達を理解することが必要でもう少し丁寧に記録をとるべきだった。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	(1歳児)その時期の子どもの姿や成長を理解し、保育計画を立てることを意識した。子どもを理解し、安全を確保したうえで、一人一人にあった対応をした。まだ言葉が発せない時期で気持ちを理解することは難しいが、日々の観察を丁寧に言い、欲求が満たせるようにしてきた。生理的欲求を適切に満たすことの重要性を感じた。 (2歳児)言葉が増えてく時期なので丁寧な言葉かけに気を付けた。何にでも興味を持ち、「やってみたい」と思う子どもの気持ちを尊重し、安全のもと挑戦できる環境づくりをした。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	(3歳児)3歳児はルールや順番、物事を理解していく初めの段階にあり、とても大切な時期だと感じた。すぐに結果を求めるのではなく、一つ一つの出来事に丁寧に、繰り返し関わることを保育の中で大切にしたい。(4歳児)環境と言葉に重点を置き保育した。環境は、子どもたちの興味関心が広がる環境とは何かを考える。言葉は、たくさん触れる機会をつくるようにした。あわせて自分の言葉で相手に伝えることを大切にしたい。(5歳児)ミーティング活動を通して行事を考え、子ども自身で考え、主体的に活動を行えるように心掛けた。子どもたち自身で方向性を考え、実現していったことで、意欲的に楽しんで行事に参加していた様に感じる。昨年ほどたくさん楽器に触れる時間を取れなかったことは残念に思う。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	朝の視診で、園児が変わった様子はないか保護者に聞き、体調などを確認することを大切にしている。また、他の保育者とも注意して様子を見たり、保護者への連絡が遅れないように気を付けている。／園児が自立していくことを目的に、「自分のことを自分でしていく力」など、就学に向けても大切にしたい。／未満児は、ファーストタッチをワクワクするものにして保育者と驚きや楽しさを共有してきた。以上児はやりたい事をミーティングをしながら計画し、実践の後には異年齢で褒め合い振り返りをした。ただ行事をするだけでなく思いもつなげる活動になった。
第3章 健康及び安全	骨折・離園等が発生しており、安全配慮を園全体に周知した。ひだまり時間の職員配置を見直し、バス・登園・外出などの人数確認は徹底して行った。ブロック長にて定期的に確認・周知を行ってきたい。 「第17回食育コンテスト」にて、優秀賞に入賞し、また調理師研究会の県発表を通して、今までしてきた事に自信が持てた。災害に対する危機感はあまりなく、「どこかで何とかできる」と思っている感がある。感染症に対する対応は年々上がってきていると思うし保護者の協力も得られていると思う。
第4章 子育ての支援	子育て支援の日々の活動の中で子どもの成長を利用している親子みんなで喜び共有できる安心して子育てが出来るコミュニケーションを心掛ける。また支援センターに来ていた親子がこども園に入園後、園で保護者を見かけたときは声をかけることで少しでもほっと安心してもらえるようにしたい。「子どもがかわいい」「子育てってちょっと楽しい」と思うようにサポートし、楽しいことを伝えていき、頑張らずに「良い加減」を進めていこうと思う。
第5章 職員の資質向上	コロナ禍でオンライン研修が多かったが自主的に参加する意欲が低かったと思う。研修を受けても自分だけの収穫で職員間の共通把握がなかなか難しかった。2月の園内研修では食育部・保育環境部のレポートを発表してもらったが発表前に部長同士で話ができていることはとてもよかったと思う。発言する機会がある研修をしていきたい。来年度はもっと楽しく保育ができるような研修テーマにし話し合いを深めていきたい。
総合	近年、「遊びを中心とした保育」「子どもを主体とした保育」に取り組んでいる中、今年度は、①東京大学Cedepにより非認知能力を育む事例集に事例として掲載され、②第17回食育コンテストの優秀賞に入賞、③進化する認定こども園として、児童クラブ・日曜さんさん・なっちゃんの家などの取組みが保育雑誌に掲載されるなど、当園の取組みが評価されていると実感できた。これに満足せず「ソニー財団の科学する心を育てる保育」にも挑戦していき、保育の質の向上に励みたい。 また、バス事故・不適切な保育等が問われた1年となり、自園でもしっかりと振り返りをし、安心安全な環境が大切であることを職員全体で共有している。来年度は、「保育をもっと楽しく！」をテーマに、安心安全な保育を深めたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.47
「3歳未満児保育」	32	4.13
「3歳以上児保育」	53	3.40
「教育保育の配慮事項」	16	4.00
「健康・安全」	29	3.62
「子育ての支援」	18	3.39
「職員の資質向上」	9	3.56
計	172	3.73

データグラフ

